

中国を見て・感じて・探る…大連事務所発のレポート

大連で最も人気が高い新聞「半島晨报」の記事にこんなものが

株式市場が活況で富豪の財産が増加

中国語版「フォーブス」で発表された 2009 年中国の富豪ベスト3は、1 位「ビアダ」(BYD)の王伝福・董事長、2 位は「東方希望集団」の劉永行・董事長、第 3 位は「ワハハ集団」の宋慶後・董事長。中国の 40 位までの富豪の総資産は、世界的な金融危機の影響を受けず、520 億ドルから約倍の 1060 億ドルになった。これは中国の株式市場が活況だったおかげである。

(中 略)

大連では、万達集団の王健林が 10 位で、昨年 35 位から上昇した。その他海昌集団の曲乃傑が 114 位、実徳集団の除明(家族の資産も含めて)が 180 位など

この富豪の資産は、11 月 5 日現在での順位であり、株価の変動により資産額も変わるため、理論的には毎日順位が変化する。

1 位の「ビアダ」(BYD)の王氏は 1995 年に BYD を設立。充電用バッテリー製造や携帯電話事業を経て、03 年に自動車分野に進出し、02 年には香港株式市場のメインボードに上場した。ローコスト化によりリチウム電池のシェアは、日本メーカーを抜き去り世界 1 位で、その低価格電池を使ってローコスト電気自動車の開発にも着手した。

中国の自動車ブームとエコ社会化の流れを受け、BYD は大きく業績を伸ばし、08 年 9 月には米著名投資家のウォーレン・バフェット氏が傘下の投資会社を通じて出資を表明すると、BYD の株価も急騰し、一躍注目を集めた。

景気対策として中国政府が進める自動車販売拡大策の追い風もあり、BYD が発表した 09 年 6 月中間期決算の内容は、売上高が 30.2%増の 161 億 3249 万元(約 2202

億円)、純利益は前年同期比 97.7%増の 11 億 7780 万元(約 160 億円)と目を見張るものだった。自動車は当初、低価格ブランドのイメージが強かったが、このところ次々とミドルアッパークラスの車種を発売しており、外資と提携しない自主ブランド車メーカーとしては奇瑞汽車に次ぐ国内 2 位につけている。

昨年の 1 位から 2 位にランクダウンした「東方希望集団」董事長の劉氏は、四川省出身の公務員。兄弟 4 人で 1982 年ウズラやニワトリを扱う養鶏業からスタートし、その後、希望集団を中国最大の飼料生産・開発企業の 1 つに成長させた。95 年には、上海に移り、東方希望集団を中国最大の飼料企業にするとともに、アルミ金属業にも参入し成功している。3 位の「ワハハ集団」の宋氏は飲料水などを中心とする中国巨大食品会社を経営。

大連で最も上位なのは、万達集団の王氏 10 位。万達集団は大連市内で至る所に貸しビルを所有。マンション開発やホテルも持つ不動産ディベロッパー。

その他大連でランクインしたのは、不動産ディベロッパー海昌集団の曲氏が 114 位、建材メーカーの中国大手で、大連トステムの合併相手でもある実徳集団の徐氏が 180 位、不動産ディベロッパーの億達集団の孫氏が 218 位ということで、大連では中国の不動産バブルと建設ラッシュによる利益が集中したところに、富豪が生まれているという結果のようだ。

フォーブス中国版によると 2008 年大連市の都市経済実力は、香港、台北、上海、北京、深セン、広州、マカオ、天津に次いで 9 位であり、大連でランクインした万達集団の王氏が 10 位というのも頷ける結果かもしれない。